

press release



まもなく開幕！

開会式、主要作品解説、特別メニュー等情報を追加しました。

会期 平成28(2016)年
11月11日(金)～12月25日(日)
会期中無休

開館時間 9:00～17:00
※金曜日は19:00まで、入館は閉館30分前まで
※11月11日は10:00開場

料金 一般 1200円 (1000円)
高・大学生 800円 (600円)
小・中学生 400円 (200円)
※()内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ● 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

 **広島県立美術館**
Hiroshima Prefectural Art Museum

【開会式について】

次の通り、「だまし絵の巨匠 エッシャー展 —不思議な版画の世界」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時／平成28年11月11日(金) 午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容／主催者紹介・挨拶、来賓紹介、協賛社紹介、テープカット、内覧

【開催趣旨】

紙から這い出すトカゲ、下から流れる水…。オランダを代表する版画家マウリッツ・コルネリス・エッシャー(1898-1972)が描く不思議な世界。視覚的な錯覚を駆使し、類まれな画力をもって描き出される「だまし絵の巨匠・エッシャー」の代表作を含めた150点以上を一堂に展示。さらに、版木やドローイングなど貴重な資料や、グラフィックデザイナー福田繁雄による、エッシャーのだまし絵を立体化した作品も特別出品します。「あたりまえ」が覆される、エッシャーの驚くべき世界をお楽しみください。

【展覧会の構成】

1. 青少年時代と修学時代

1898年～1922年

マウリッツ・コルネリス・エッシャーは、1898年6月17日、オランダ北部の街・レーワールデンで生まれました。1919年には、美術の道を志し、同国ハールレムの建築装飾美術学校へ進学。両親は建築の道へ進むことを望みますが、教師のサミュエル・イエッスルン・ド・メスキータは、エッシャーの才能を見出し、版画の技術を教授します。本章では、後年の「だまし絵」を予感させる初期作品や師・メスキータの作品などをご紹介します。

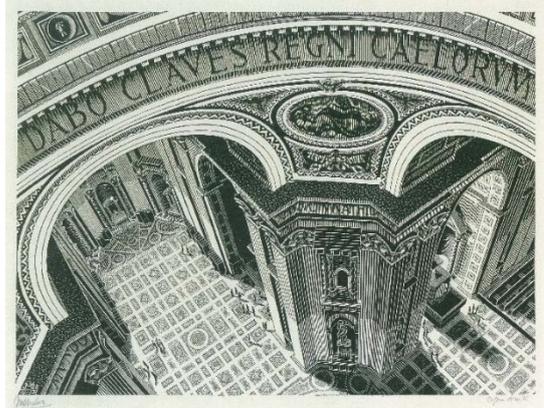


《八つの顔》1922年

2. イタリア時代 1922年～1935年

1920年代初頭、イタリアへ旅立ったエッシャーは、広がる風景や建築物、芸術に大きな感銘を受けます。以後、毎年1度はイタリアへ旅し、風景画を描くようになりますが、そこには三次元の事物を二次元の画面に表現することへの探求が見られます。ただし1935年、ファシズムの隆盛に耐えがなくなり、イタリアを逃れます。

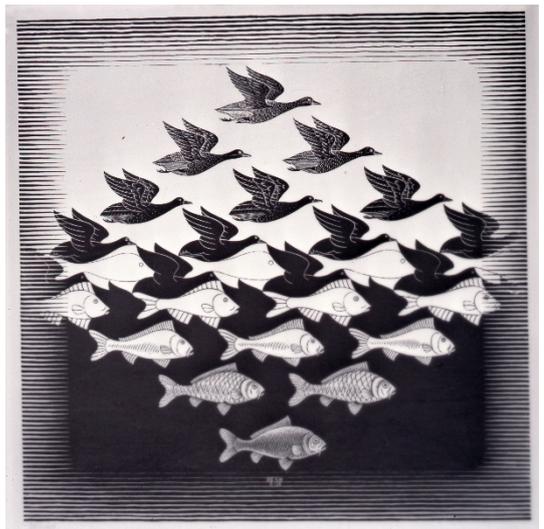
なお、エッシャーは1922年にスペインのグラナダにあるアルハンブラ宮殿へ訪れます。そこで幾何学的装飾模様魅了された体験が、幾何学的図形によって画面を充填させる“平面の正則分割”という生涯の仕事へ繋がっていきます。



《サン・ピエトロ寺院の内部(ローマ)》1935年

3. 独自の世界 1936年～1953年

イタリアを離れ、風景への画欲を失ったことを契機に、エッシャーは空想と現実とが入り混じる作風へと移行します。《空と水Ⅰ》では菱形の畑が鳥へと変容し、《爬虫類》では二次元と三次元の世界が画中心にて無限に循環する様子が描かれます。他にも、鏡による効果、奇怪な遠近法、シンメトリー、有り得ない空間構造などが作中で取り扱われるようになります。また、結晶学と出会うことによって、結晶状の形や固体の描写に対する偏愛が発展し、エッシャー独自の画風が確立していきます。



《空と水Ⅰ》1938年

4. 無限への挑戦 1954年～1972年

切手や壁画、天井装飾など、外部から仕事の依頼が増えるとともに、1950年代には『タイム』誌や『ライフ』誌などに好意的な記事が書かれ、エッシャーは科学者からも注目を集めることとなります。地質学者、結晶学者、数学者、知覚心理学者らと交流を深めながら、二次元の平面上に「無限」の世界を表現する手法をより深めていきます。本章では、「だまし絵の巨匠」エッシャーが晩年に手掛けた、魔法のような作品の数々を紹介します。

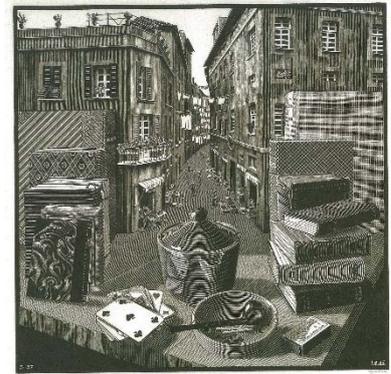


《爬虫類》1943年

【主要作品解説】

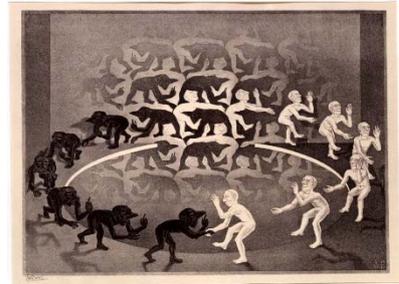
《静物と街路》1937年

ファシズムを忌避してスイスに拠点を移した翌年、エッシャーはイタリア北西部の港町サヴォナを訪れます。地中海に面したこの街で、彼は2階の窓から眺めた路地をスケッチに残し、その一年後に本作を仕上げました。テーブル(屋内)と道路(屋外)との境界が曖昧で、二つの世界が繋がっているかのような有り得ない光景が広がっています。この時期から、エッシャー独特の”有り得ない”世界が生み出され始めたのです。



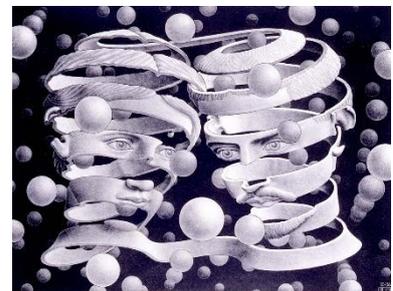
《出会い》1944年

壁面に描かれた二次元の装飾模様から、黒い人物と、白い人物が三次元の世界に飛び出してきたのでしょうか。エッシャーによれば、黒い人物は悲観論者を、白い人物は楽観論者を示しているとのこと。互いに不気味なポーズを保持したまま、ぐるぐると歩みを進めるうちに前景で再び出会い、握手を交わすという図柄になっています。それはまるで、心の中で葛藤する気持ちが上手く折り合いを付けたようにも見えます。



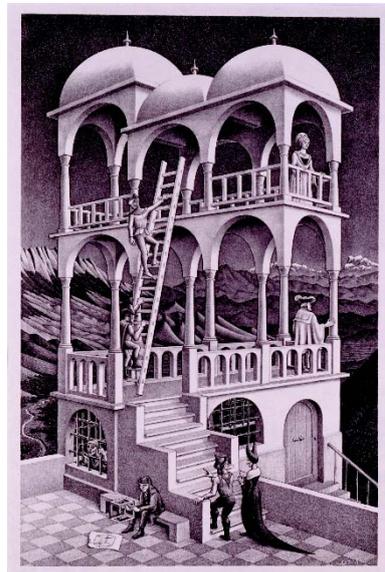
《婚姻の絆》1956年

綺麗に剥かれたリンゴの皮のように、らせん状の帯が繋がっている男女が描かれています。実は、右側の髭を蓄えた男性はエッシャー自身、左側に描かれている女性は妻のイエッタがモデルとなっています。「SFの父」と称される小説家のH. G. ウェルズが著した『透明人間』(1897)に登場する、透明になった身体に包帯を巻き付けた主人公に触発されて本作を制作しました。こうした表現によって、人物の内面と外面とを同一の画面の内に表現できるのではないかと考えたのです。



《ベルベデーレ(物見の塔)》1958年

中階と上階とで”向き”が異なっている奇妙な塔。本作は「ネッカーの立方体」という現実には存在し得ない錯視図形を参考に描かれました。画面の左下には、この存在不可能な立方体を手に持ち、静かに腰かけている人の姿が確認できます。そのすぐ左横の窓越しに見える男性は、この奇妙な世界に閉じ込められてしまったようにも見えます。背景に描かれている険しい山々は、エッシャーが生涯にわたって恋焦がれたイタリアの風景が元になっています。



図版はすべてM. C. エッシャー作、ハウステンボス美術館蔵。

All M.C. Escher works © Escher Holding B.V.-Baarn-the Netherlands

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

【関連イベント】

記念講演会「エッシャー その作品と生涯」(共催: 広島県立美術館友の会)

日時: 11月13日(日) 13:30~15:00(開場30分前)

講師: 安田恭子(佐世保市博物館 島瀬美術センター館長) 会場: 地階講堂

※聴講無料。申込不要。定員200名(先着順)

ワークショップ「くりかえしの世界」

紙を折って切り抜くと同じ形がたくさんできます。下絵や紙の折り方に工夫して、反復し展開する空想の世界を切り絵で表現しましょう。

日時: 11月26日(土) 14:00~16:00

講師: 松尾真由美(美術家) 会場: 地階講堂 対象: 全年齢

※参加費無料。※定員に達したため申込受付を終了しました。

※当日は、切り絵にしたい動植物や昆虫の写真、身の周りの小物などを持参ください。

美術講座「エッシャーは何を追い求めたのか」

日時: 12月10日(土) 13:30~14:30(開場30分前)

講師: 山下寿水(当館学芸員) 会場: 地階講堂

※聴講無料。申込不要。定員200名(先着順)

ギャラリートーク

日時: 11月18日、12月2日、12月16日(金) 11:00~/11月25日、12月9日(金) 17:00~

講師: 当館学芸員 会場: 3階企画展示室

※入場券が必要です。申込不要。 ※会場入り口にお集まりください。

ウェブレポーター大募集

日時: 11月18日(金) 17:00~18:30

受付場所: 3階ロビー 実施場所: 3階企画展示室内

対象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどのSNSにて情報発信をされている一般の方(参加者は、本展にご招待)

press release



ロビーコンサート

- 11月19日(土) 12:00～ 演奏:エリザベト音楽大学学生
- 11月20日(日) 12:00～ 「素敵な絵画とマリンバと」
演奏:マリンバ/石原有希子、ピアノ/大下枝里子、パーカッション/浅田真生
- 12月18日(日) 12:00～ 「無限の潮流～エッシャーと共に～」
お話とピアノ演奏:平野 満(ひろしま・オペラ音楽推進委員会)

※いずれも申込不要。鑑賞無料。1階ロビーで行います。

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園

本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

縮景園共通券

一般1,300円 高・大学生900円 小・中学生500円

【特別メニュー】

徒夢創家(3階ティールーム)

ティールームでは、白と黒で表現されたエッシャーの版画作品をイメージして、白と黒のメニューをご用意しました。ケーキは白を基調としながらレアチーズとバークドチーズの2層を一度にお楽しみいただけるダブルチーズタルトとチョコレートクリームにガナッシュチョコが濃厚なチョコレートケーキ。お皿の上もエッシャー展用にデコレーションしています。お抹茶にあわせるのはチョコレートスポンジにマスカルポーネクリームをあわせたミニロールケーキ。この他、ココアやアフォガートも期間限定で登場します。

Zona ITALIA in Centro(1階レストラン)

レストランでは、3品の特別メニューを提供します。前菜の「鶏肉のロートロ～渦巻き」は、エッシャーの《渦巻き》をヒントにした一品。本展のキャッチコピーをタイトルにした「スパゲッティ これどうなってるの?～モルタデッラとパールブッフアラ」は、シェフの遊び心満点の中身の見えない一皿、エッシャーの作品のように「これどうなってるの?」とお楽しみください。デザートプレートは、クッキー型からオリジナル!エッシャーの《昼と夜》をイメージしたお皿のデコレーションから飛び立つ白と黒の鳥はまさにエッシャーの世界。展覧会をお楽しみいただいた後は、ちょっと不思議な期間限定メニューもあわせてお楽しみください。



上=ダブルチーズタルトとチョコレートケーキ
下=お抹茶セット



上=鶏肉のロートロ～渦巻き
中=スパゲッティ これどうなってるの?～モルタデッラとパールブッフアラ
下=エッシャーデザートプレート

【開催概要】

メインタイトル:だまし絵の巨匠 エッシャー展

サブタイトル:不思議な版画の世界

キャッチコピー:これどうなってるの？

展覧会英語名:M.C. Escher, the Master of Trompe-l'oeil: Mysterious World of Prints

料金:一般 1,200(1,000)円 高・大学生800(600)円 小・中学生400(200)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所:広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンチケット <http://7ticket.jp>)、ローソンチケット(Lコード 62365)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン、フジなど。

開催クレジット:

主催 広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ

後援 中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛 広島県信用組合

企画協力 ハウステンボス美術館

問い合わせ先 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 山下寿水、事業推進課 山本恵子